

平成28年度 第4回男女共同参画セミナー開催報告

平成29年3月4日(土)に「介護と仕事の両立」をテーマにした講演会を開催しました。

当日は、介護・暮らしジャーナリストの太田差恵子先生に、「仕事と介護の両立」、「介護とお金」等の視点からご講演いただきました。

入浴・排泄・食事に関する支援だけが介護ではなく、親が気持ちよく介護を受けられるようにマネジメント(親の状況把握、自分の代わりに支援を行う人を探すこと、財産管理等)をすることも大事な介護の1つの形であること、また、親の介護をひとりで抱え込もうとせず、サービスの情報収集に力を入れ、「人」に頼ることも時には大切とお話いただきました。

「親の介護で会社を辞めないために
~今からできることを考えよう~」

講師 太田 差恵子 さん
(介護・暮らしジャーナリスト)



会場 オリナス一宮

<受講された方の声>

- ・私の介護を本人は迷惑をかけたくないと思うからか、あまり受け付けてくれず、ヘルパーに頼っている自分を責めていました。マネジメントも大切な介護の1つなんだと思えば、今のままでも良いんだと、前向きな気持ちになりました。(40代)

事業所向け男女共同参画出前講座をご活用ください!

平成29年3月17日(金)社会福祉法人コスモ福祉会様の研修会に講師を派遣しました!



今回は、伊藤亜貴子さん(A&N合同会社)に「働きやすい職場環境づくり ~職場内の人間関係、コミュニケーション術~」と題してお話いただきました。

内容は、「ワーク・ライフ・バランス」、「ほめ方 叱り方で職場は変わる」等、多岐にわたり、受講者の方から「管理者として、チームをまとめること、人とのつながりについて振り返り、反省し、改善していく良い機会になった。」等の感想をいただきました。

市では事業所等が企画・実施する、ワーク・ライフ・バランスに関する講座や研修会に講師を無料で派遣しています。(講座開催には15人以上の参加者が必要です)

詳しくは、企画政策課までお気軽にお問い合わせください。企画政策課のウェブサイトでもご案内しています。

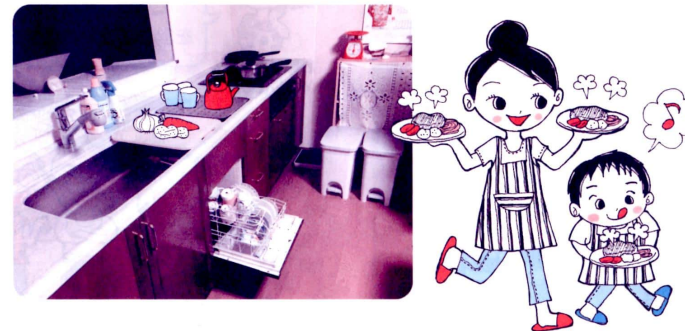
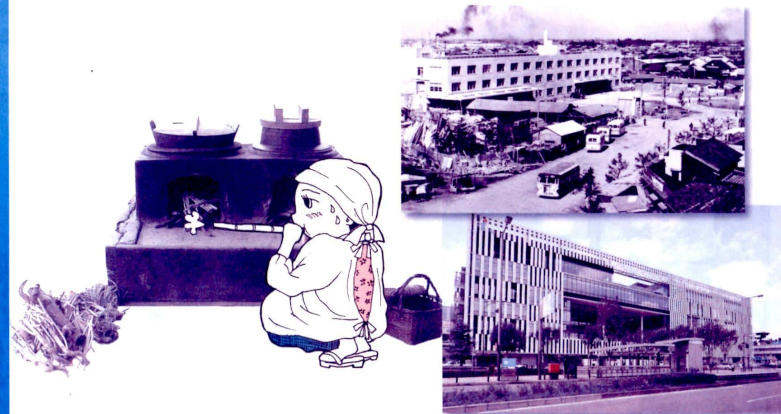
【いーぶん】は『男女共同参画』に関する様々な情報や話題を皆さんに提供する情報紙です。
 【いーぶん】という名称には、男女の平等『EVEN』とみんなの『言いつ』という意味が込められています。
 編集協力者/岡西 美子、吉田 和江、伊藤 孝司、岩田 宏美 編集・イラスト協力者/後藤 明美
 編集・発行/一宮市企画部企画政策課
 〒491-8501 一宮市本町2-5-6 TEL 0586-28-8952 FAX 0586-73-9128
 Eメール kikakuseisaku@city.ichinomiya.lg.jp ウェブサイト http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/
 *企画政策課のウェブサイトでは、『いーぶん』のバックナンバーをご覧いただけます。
 *『いーぶん』は市内公共施設で配布しています。配布場所については企画政策課にお問い合わせください。

【いーぶん】には再生紙を使用しています。

いちのみやし男女共同参画情報紙

いーぶん

素敵なパートナーになるために



女性はいつの時代でも私たちの暮らしの中で家事や育児など中心的な役割を担ってきました。

私たちの暮らしの変化とその時代ごとの女性の活躍を見ながら、今の子どもたちが大人になる頃、社会はどのように変化していればよいのでしょうか? いっしょに考えてみましょう。

特集

女性の暮らしと活躍

時代の移り変わりとともに
そして未来は??

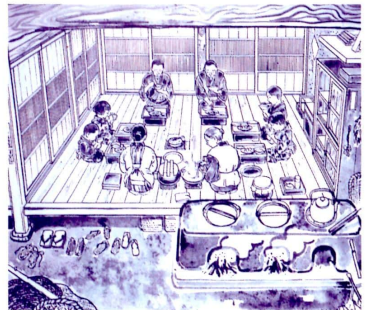
女性の暮らしと活躍

～時代の移り変わりとともに
そして未来は?～

戦後、核家族化等による「家族のかたちの変化」や「共働き世帯の増加」など、女性を取り巻く環境は変化してきました。また、女性の活躍に対する社会全体の意識も変化し続けています。今後、女性が、そしてだれもが、家庭や職場そして地域で活躍していくために、今、何が必要とされているでしょうか?



戦前、家族の多くは大家族で生活し、家族全員で協力しながら家業を営んでいました。女性も貴重な労働力として家業を手伝い、親きょうだいの助けも借りながら家事・子育てと両立させていました。



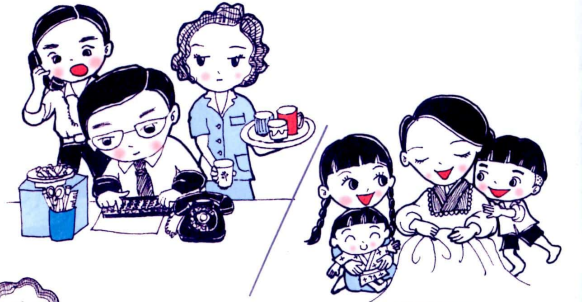
農家の食卓(出典: 尾西歴史民俗資料館)

昔は、今と違って叔(伯)父さん叔(伯)母さんと同居するってこともあったんだってね。食事の支度も何かもみんなで協力できたのかな?

お話を聞いた人 Gさん(30代女性)

戦後、高度経済成長期に突入すると、学校卒業後に会社に勤め出す人が増えたんだよ。「夫は外で働き、妻は家を守る」という考え方が一般的になったかな。

お話を聞いた人 Iさん(60代)



でも、まだ一宮では自営業を営む家族が多かったよね!

お話を聞いた人 Yさん(60代女性)



子どもは社会で育てた時代



昭和27年当時の尾張一宮駅周辺(出典: 一宮市立中央図書館)



昭和35年頃の食事のようす(出典: 昭和45年市勢要覧)

昭和55年以降、共働き世帯が年々増加しました。兼業主婦は「家事と仕事」の両方にエネルギーを注がなければなりません。

2人の子どもを育てたけれど、旦那は仕事から帰ると「疲れたから」って話も聞いてくれなかった...

お話を聞いた人 Oさん(60代女性)

今の若いお父さんには育児に協力的な人もいて、うらやましいわ。出産後の再就職もかなり難しかったしね。



人々の考え方や価値観にも変化があらわれ、仕事よりも自分や自分の家族のために時間を使うと考える人が増えています。また、男性の意識も変わり、家事や育児に協力する人が、特に若い世代で増えつつあります。



女性がより活躍できる社会には、何が必要でしょうか?

- 女性の就業促進・就業継続に向けた支援
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 育児・介護をしながら働くことができる環境の整備 などなど...

未来は、どんな社会になっているだろう?

誰もが「その人」らしく家庭や地域、職場で輝ける社会づくりが大切になってきているね。私たちが大人になる頃は、どんな世の中になっているんだろう?楽しみだね!

